

第 101 回 薬剤師国家試験問題検討委員会
「病態・薬物治療」部会報告書

日 時：平成 28 年 5 月 14 日（土） 13:00～17:00

場 所：神戸学院大学 ポートアイランドキャンパス

出席者：

私立大学	54校	68名
国公立大学	14校	14名
計	68校	82名

委員長名	徳山 尚吾
所属大学名	神戸学院大学

1. 総合評価

(1) 難易度について

- ・ 必須問題は、比較的高い正答率を達成したと思われる問題が多く、昨年度より改善されている。一部やや難解な問題もあったが、選択肢の設定により改善が可能であると思われる。
- ・ 理論問題は、統計・医薬品情報関連問題の難易度が高く、改善が望まれる。
- ・ 複合問題の難易度は概ね適正であると判断される。

(2) 卒業時に問う内容として適切か

①必須問題

- ・ 薬剤師として最小限知っていなければならない問題が多く、内容として適切であると判断できる。
- ・ 新傾向の内容を必須問題として出題する場合、正答率を意識して出題すべきである。
- ・ 他分野に分類されるべき問題が含まれており、科目別に足切りが設定されている必須では、慎重に分類すべきである。

②理論問題

- ・ 分子標的薬等を用いたオーダーメイド治療に関する問題は、今後、重要であると考えられるが、問題数が多くなるのは避けるべきである。特に診断をにおわせる問題は難易度を上げてしまう。どこまで学習すべきか不明確である。
- ・ 統計、医薬品情報関連の問題数が、全体的に多い。特定な業務（研究者、治験関係者）に就くことは大前提にせず、薬剤師の基本的な能力として必要な内容、問題数にすべきである。（病態、薬物治療として問わなければならない内容はもっとあるので、統計、医薬品情報の問題数の比率を考慮してほしい）

③複合問題

- ・ 他の科目の複合問題と比べて、薬物治療と実務の境界がはっきりしなくなっている。足切りがなくなったことから、統合的に学ぶ姿勢が求められるとも判断されるが、議論は必要である。

(3) 出題された問題の適切性

①統計問題

- ・ 解答に時間を要する計算問題は、通常の学生は向き合わず後回しにする傾向がある。このような問題を資格試験に入れることは問題である。学生に捨てられる（結果的に正答率が低くなっていると考えられる問題）ような問題を入れず、誰もが解きたいと思うような問題の設定を考慮すべきであ

る。

②疾患

- ・改定コアカリの8疾患は網羅されていた。前回散見された希少疾患はほとんど見当たらず、改善された。

③薬物治療

- ・前回話題となった新薬の取り扱いであるが、適応後数年が経ち、エビデンスがある程度確立している薬物が出題され改善されたと判断出来る。
- ・昨年度は、薬物治療よりも病態を問う問題に偏っている印象があったが、今年度は昨年度に比べて数多く取り込まれ、改善した。
- ・薬物治療に比べ、病態を問う問題は今年度も正答率が低く、問題の質的な改善を計るべきである。
- ・症例問題の中には、現状ではあまり行われていないものがある。一方、C型肝炎の治療のように、最新の薬物を含むものにすると教育的な問題が生じる。どこで線引きをするのか議論が必要である。

(4) その他

- ・国家試験当日の訂正がなく、学生が安心して解答できる環境であった。

(5) 全体を通して

- ・101回は簡単になったのではなく、適正な問題が多かった。99回、100回の結果から、大学がしっかりと対策し、学生が一生懸命学んだことと、101回国家試験が、99回、100回の国家試験の多くの問題点を改善した結果、今回のような合格率を得られたと思う。今後、元に戻ることなく、この方向で進めていくことが大切である。

2. 設問評価

(1) 「誤りがあると判断された問題」

問 62 正解の選択肢である『ビタミンK2』には骨吸収抑制作用もあり、不適切である。

(2) 「問題の観点から不適切である問題」

問 56 問 291 と CA19-9 が重複しており、どちらか一方にする方が望ましい。

問 62 問題として、薬理に分類されるべきである。

問 69 薬剤分野の問題である。

問 70 薬剤分野の問題である。

問 188 問題文そのものが、「薬物に関する」となっているため、薬理の問題という印象を与える。「予防や治療に用いる薬物」と表現した方が当該分野の問題として適切である。作用機序を問うのではなく、治療・適応の部分で正誤を考えさせた方が、当該分野の問題として適切である。

問 190 レジメン名 (FOLFOX, FOLFIRI) だけではなく、構成薬物を表記すべきである。次から次へと新薬が出る分子標的薬に関して、どのレベルまで試験で問うべきか、新薬に合わせて学ぶ側・教える側のガイドラインを見直していった方がよいと考えられる。問 291 と設問の重複性が認められる。

問 191 領域として、法規・制度・倫理の領域の方が適切と考えられる。MRの業務を薬剤師国家試験として問うべきか疑問である。

問 192 出題基準を逸脱しているため、不適切である。

問 193 衛生領域での出題の方が望ましい。

問 195 統計学上、解析思想の全く異なる分散分析と多重比較を、このようなフローチャートで示すことは不適切である。また、Scheffe の多重比較のような、現在では使用されない古い手法が含まれていることも不適切である。

問 303 薬物代謝に関わる内容は衛生薬学あるいは薬剤学の分野で扱われるべきである。

(3) 「問題・選択肢の表現が不適切である問題」

必須問題

問 58 誤りの選択肢が実際の症状・所見の反対を記述しているが、選択肢 4 の「筋肉増強」は極端すぎて不適切である。

問 59 選択肢 4 「近位尿管の障害」では現実性がないため「糸球体の障害」とすべきである。

問 60 誤りの選択肢が必ずしも適切とは言えない。自覚症状などで統一すべきである。

問 61 正解の選択肢である『浮動性めまい』は用語として不適切であり、『非回転性めまい』とすべきである。「浮動性めまい」と「眼振」は区別しにくい、患者の病態を適切に判断できるような選択肢を設定すべきである。

問 66 選択肢 3 「製品の特徴」という表現は、薬効薬理との意味の違いが曖昧で、受験生の誤解を招いた可能性がある。必須問題としては、正答率を意識した選択肢の設定をすべきである。

問 68 選択肢 5 の表現のうち「客観的評価が可能な項目」という表現の中に項目の数を含めたほうがよい。選択肢 1 の表現のままでは誤りとは言い切れない場合がある。

問 69 選択肢 5 「アミオダロン」は、TDM の対象薬であることから、腎機能障害時に投与量の補正が必要と考えた受験生が多かった可能性がある。必須問題として、腎排泄型の薬物を問うならば腎排泄型薬物としてもっと有名な薬物を選択すべきである。選択肢 1 と 2 が同じ種類の薬であり、別の種類の薬にすべきである。

問 70 選択肢 1 と 2 は個々の細胞の挙動に関する問いになっているので、正誤の区別をつけにくい。肝組織全体における挙動に関する表現にすべきである。薬物動態学的影響を問う問題とするならば、薬物動態学で用いられる表現を用いた選択肢を設定すべきである。

理論問題

問 181 領域 1 問目として、リード文が長すぎる。もう少しシンプルにすべきである。MRI よりも CT あるいは MRA の方が実臨床に合う。血行再建術ができない症例と定義すべきである。サルボグラマトは使用頻度が低く、他の薬剤にすべきである。

問 182 リード文の COPD と心不全の関連が不明であり、シンプルに心不全のリード文にすべきである。

問 183 患者設定から心筋梗塞か肺塞栓症か明確ではない。安全性速報は問わず、両方正解にした方がよい。

問 184 選択肢 3 「同時に」という表現には疑問が残る。選択肢 5 には具体的な薬物名の方がよい。

問 185 スピロラク톤は異常月経を起こすことがあるため、提案すべき治療薬としては疑問が残る。

問 186 問題文から誤りの選択肢（多発性硬化症・痛風腎）が除外できるような検査値等のデータを加えた方がよい。

問 187 処方変更を容易に提案することは困難なため、病態の設定を耐糖能異常ではなく、糖尿病とした方がよい。薬歴では現在服用しているかが不明であり、現在服用している薬物と分かるよう

な表現が望ましい。「削除すべき」と表現するよりも、「原因と考えられる薬物はどれか」のほうが望ましい。

問 188 選択肢 3「第一選択薬」まで問うのは疑問である。

問 189 選択肢 1「罹患率が低い」というのは、何に対して低いのが不明なため、比較対象があった方がよりよいと考えられる。選択肢 5「初期治療が第一選択」という表現は、「治療が第一選択」あるいは「治療には、ニューキノロン系抗菌薬が第一選択」という表現の方が好ましい。

問 191 選択肢 1は、表現が冗長である。「医薬情報」は医薬品情報が適切である。選択肢 3は、誰に情報提供を行うのか明記した方が望ましい。

問 193 「絶対リスク減少率」という言葉に違和感がある。「絶対リスク減少」とした場合の方が正解しやすい。

問 194 難解な計算をさせる問題よりも、統計の概念を理解しているかどうかを問う問題としては、改善されている。一方、完全な統計の問題となっているので、医薬品を使った表現にした方がよい。正解の選択肢 3は、統計学ではやってはいけないことであり、これを選択させるのは疑問である。

複合問題

問 287 40代男性と出てくるが、選択肢である好発年齢と関連性がない。問題の内容を吟味すべきである。

問 291 選択肢 1「EGFR 変異」も頻度が高く、不適切である。選択肢 2は日本語として問題があり不適切である。推敲不十分な印象が否めない。

問 295 選択肢 1が他の選択肢に比べかけ離れており、選択肢として妥当性が低い。作問のための症例となっている。薬剤師がきちんと症例を「みる・読む」ことができるように、定まった形式で症例は記載すべきである。

問 297 82歳の患者に、生物学的製剤の追加を考慮するか、臨床的に疑問である。

問 299 設問中の薬物療法は現状にそぐわない。バックボンドラッグとしての NRTI2 剤は、問題文の ZDV と 3TC よりも TDF/FTC が第一選択で、キードラッグも LPV・RTV は現在ほとんど使われておらず、EVG/COB、DTG、RAL などの INSTI が第一選択と思われる。選択肢 3の「インフルエンザ様症状」は、「上気道感染様の症状」という表現の方が適切である。

問 301 選択肢 4は、前問の問 300 のヒントとなる可能性があるのですが、作問には注意すべきである。禁煙が薬物治療の大前提であることを明確にした方がよい。

問 307 症例の設定（処方）に疑問がある。たとえば、高度の腎機能障害（クレアチニン値が高値）では禁忌薬であるロサルタンが処方されている。また腎不全期の糖尿病患者にはグリメピリドやメトホルミンではなく、インスリンの適用と考える。

(4)「複合性が不適切な問題」

問 288 設問の連続性が高すぎる（1問目ができないと2問目もできない）。

問 291 複合問題として内容にズレを感じる。設問 291で「大腸癌一般論」として問い直しており、連続した問題とは言いがたい。連続した問題であれば選択肢 5は不適切である。大腸がんの再発を腫瘍マーカーで診断するわけではない。

問 293 設問の連続性が高すぎる。

問 297 問 296との複合性はなく、独立した問題となっている。

- 問 299 リード文を必要としない設問であり、問 298 との複合性も全くない。リード文中の患者情報を基にした作問が望まれる。
- 問 303 複合性のない、薬物代謝酵素の名称を問うだけの暗記問題で、病態・薬物治療の問題としては不適當である。
- 問 307 本問題は他の 3 問とは無関係に単独で成立する設問であり、複合性がない。また、難易度も低く、必須問題レベルの平易さである。

3. 各問題の評価結果

別紙 1 のとおり

別紙1 第101回薬剤師国家試験問題「病態・薬物治療」部会 評価表

	番号	誤り			適切性			表現			授業で教えて	
		ある	ない	無回答	不適切	適切	無回答	不適切	適切	無回答	いない	いる
必須問題	56	0	61	0	0	61	0	0	61	0	0	61
	57	0	60	0	1	59	0	2	58	0	1	59
	58	0	61	0	1	60	0	0	61	0	0	61
	59	0	61	0	1	60	0	2	59	0	1	60
	60	0	61	0	1	60	0	2	59	0	6	55
	61	0	60	0	2	55	3	6	52	2	5	55
	62	2	59	0	3	57	1	8	52	1	5	56
	63	0	61	0	1	60	0	0	61	0	2	59
	64	0	60	0	0	58	2	0	61	0	1	60
	65	0	60	0	4	52	4	1	56	3	4	56
	66	0	57	2	2	52	5	2	54	3	11	48
	67	0	60	0	1	59	0	0	59	1	2	58
	68	0	58	1	1	57	1	6	53	0	9	50
	69	0	59	1	3	52	5	2	54	4	10	50
70	0	59	0	4	53	2	1	57	1	6	53	
一般問題（薬学理論問題）	181	0	57	1	3	52	3	3	53	2	9	49
	182	0	57	2	4	54	1	5	53	1	1	58
	183	1	56	1	1	55	2	2	54	2	7	51
	184	0	59	1	0	59	1	4	56	0	0	60
	185	0	60	0	0	60	0	2	57	1	3	57
	186	0	59	0	0	59	0	3	55	1	0	59
	187	0	59	0	1	58	0	1	58	0	2	57
	188	0	58	0	5	51	2	4	52	2	11	47
	189	1	57	0	0	56	2	1	57	0	4	54
	190	2	53	2	7	45	5	5	49	3	13	44
	191	1	55	1	1	53	3	4	51	2	7	50
	192	0	54	2	6	39	11	0	53	3	23	33
	193	2	53	1	2	53	1	3	52	1	8	48
	194	1	56	0	1	55	1	5	51	1	6	51
	195	4	50	2	5	47	4	4	50	2	14	42

	番号	誤り			適切性			表現			複合性			授業で教えて	
		ある	ない	無回答	不適切	適切	無回答	不適切	適切	無回答	不適切	適切	無回答	いない	いる
一般問題 (薬学実践問題)	287	0	60	0	0	59	1	3	57	0	8	49	3	2	58
	288	0	60	0	0	60	0	0	60	0	0	60	0	7	53
	291	0	59	0	3	55	1	2	57	0	7	49	3	4	55
	293	0	59	1	1	56	3	4	54	2	4	55	1	3	57
	295	0	57	1	3	52	3	0	58	0	6	52	0	9	49
	297	0	59	0	3	55	1	3	55	1	2	56	1	2	57
	299	1	58	1	3	56	1	2	56	2	8	48	4	3	57
	301	1	57	0	1	57	0	1	56	1	2	56	0	3	55
	303	0	57	2	2	52	5	1	55	3	2	54	3	7	52
	307	0	58	0	1	57	0	3	55	0	1	55	2	0	58

(注)無回答:「わからない(判断できない)」を表す。また、数字は回答大学数である。